平成十九年入試結果のまとめ

進路部長　岡松宏明 先生

今春の卒業生（82回生）は、授業に臨む姿勢がよく、各先生の評価は非常に高かった。また模試成績も上位の層が厚く、結果が期待されていたが、それに十分にこたえる内容であった。東大、京大、阪大で2桁の合格者が出たのを始め、難関10大学（旧帝大7校＋一橋・東工・神戸）の合格者は60名を超え、現役合格率は80％に乗った。

東大・京大・阪大共に10名以上の合格は、昭和62年度以来である。しかし、この年は国公立大を全員2校受験できたので、今年の結果と単純に比較できないことを考え合わせると、今春の結果は30年ぶりの好成績であったといえる。

医学部は、高知大医学部のAO入試で手厚い対策が実を結び、定員30名中9名（現役8名）が本校生であった。あわせて推薦入試では徳島大、佐賀大に合格。浪人生の頑張りも目を引く。東京医歯大、名古屋大、大阪大、広島大と医学部の中でも最難関の大学に合格、自治医大は2名とも本校生であり、医学部に強い本校の特徴が今年も維持できた。

今春入試結果が、このような好成績をあげた原因として、現役生がセンター試験難化、未履修問題にも動揺することなく、平常心で最後までお互いに励ましあいながら努力したことがあげられる。また、浪人生が着実に力をつけ、難関大学・医学部の合格につなげたことも大きい。82回生の現役と1浪の合格者計は、東大（4＋3）一橋（4）東工（2）京大（8＋4）阪大（8＋5）であり、立派な成績となる。

この結果を今年限りのものとせず、これからにつなげていくことが重要だと考える。

主要大学合格者数

大学名	19年	18年
北海道大	4	2
東北大	1	3
筑波大	2	6
東京大	11	6
東京工業大	1	4
一橋大	1	4
横浜国立大	4	2
名古屋大	3	1
京都大	12	10
大阪大	18	11
神戸大	6	11
岡山大	14	10
広島大	6	7
徳島大	8	4
香川大	2	2
愛媛大	7	5
高知大	30	22
（うち医学部）	14	8
九州大	6	3
首都大学東京	4	1
高知女子大	2	1
慶応義塾大	19	17
上智大	5	9
中央大	17	22
東京理科大	26	15
早稲田大	27	24
同志社大	34	45
立命館大	86	92
関西大	28	29
関西学院大	57	37
高知工科大	9	4
国公立医学部	24	15
私立医学部	17	6

82回生の受験を振り返って

松村　誠 先生

進路指導部長の岡松先生は、「この学年は、非常にこまめに学習指導を行った。この指導を『締め付け過ぎでは』という意見も一部であったが、生徒たちは、それを肯定的に受け止めていたように思われ、その結果〝真面目に学習に取り組む学年〟という姿勢が形作られたことが、良い成績につながった。」と評価して下さいました。

まず、こまめに学習指導ができたのは、土佐校では初めて担任団にお二人の女先生、山下・島内先生がいらっしゃったお陰だと思います。女先生ならではの、生徒一人一人に対する細やかな心配りが、学年全体の指導の基調となりました。「締め付け過ぎでは」と評された指導も、広報部長の小村先生が集計して下さった学校生活アンケートによると、高3になっても「学校はとても楽しい＋かなり楽しい58.9％（55.8％）、学校生活に満足している66.5％（60.9％）」など、学校が大好きな生徒が近年では最も多かった81回生をも上回っていて、ほっとしました。そのように厳しい指導を肯定的に受け止められたのは、「6時半までに起床（37.3％）」と総じて早寝早起きで、「昼食はお母さんの手作り弁当（59.3％）」などお母さん方の優しい頑張りのお陰で、基本的な生活習慣が身についた明るく健康的な生徒が多かったからだと思います。

その結果、模試の成績を四国内の優秀校と比べても、成績不振の生徒を少なくできました。学年が二極化することなく、生徒同士が支えあって「全員第一志望現役合格」を目指して頑張る雰囲気を作ることができ、現役合格率80％となりました。

また、学校全体の〝こまめな指導〟にも支えて頂きました。例えば、進路指導部を中心に行われた面接・志望理由作成指導、小論文の添削、グループディスカッションなどのお陰で、高知大医学部AO入試は、県内合格者15名中8名の合格者を出すことができました。また、未履修補修問題は、教務部長の島崎先生をはじめ多くの先生に助けて頂きましたお陰で、「何でいまさら…という気持ちもありましたが、午前中4時間あっても全く疲れず、今まで習ったことがない先生の話も聞けて、この先生の授業も受けてみたかったなぁと思いました。」という生徒の声や、学校批判どころか「こんなにいい生徒に育ったのは学校の先生のお陰」というお母さんの新聞投稿に、苦しい思いの担任団も支えられました。

「昨日は、家庭科の授業が最後で、小川先生が、別れるのが寂しいと少し泣きながら言ってくれました。今日は、世界史の補習の終わりにみんなで記念撮影！西峯先生からもうれしい言葉をいただきました。本当にいろんな先生にお世話になっていて、大事にしてもらっていたんだなと実感した今日この頃でした。」とホーム日誌にありました。本当にたくさんの方々に支えて頂いたお陰で、学年全体で頑張れたのが「82回生の勝因」ではないでしょうか。

進学講演会

「親子で乗り切る大学受験」

河合塾　田村耕司 先生

6月9日（土）午後3時から、毎年恒例となった本校振興会主催の進学講演会が「RKCホール」で開催されました。今年は、本校会議室から外部へと会場を移しましたが、うれしい誤算で参加者が当初会場「高新文化ホール」の定員を大幅にオーバーした為、急遽会場を移したほどの大盛況ぶりでした。最終的には、参加者数600名強とおそらく過去最高であったと思います。参加者は中1から高3までの全学年の保護者・生徒にわたり、進学講演会に対する期待がますます大きくなっていることが伺えました。

今年は、河合塾の田村耕司先生を講師にお招きし、「親子で乗り切る大学受験」と題して約90分間にわたって、保護者の心構えや最新の受験情報、費用などについて、熱心に講演していただきました。配布していただいた冊子も非常に役立つ内容でした。

保護者の方は、「初めて来たけれど、大学受験の事が解った。」「来年もぜひ参加したい。（高2以下）」などの意見を述べておられました。

講演の内容（要約）は以下の通りです。

振興会監事　島巻　淳

「受験期に不安を感じたことがありましたか？」という問いに、85％以上の保護者の方が「Yes」と答えられます。その原因のひとつに、子供たちとのコミュニケーションの難しさがあると思います。受験直前期になってからではじっくりと話し合う機会は取れないもの、早い時期からの場づくりが大切です。その秘訣は、日常の中で、先ずは子供たちの考え方や目標を「知る」こと、次にそれを「認める」こと、そしてその後に「励ます」、あるいは「叱る」こと。言い換えれば、いきなり『叱る』のではなく、『知る→認める→励ます』のステップを大切にしていただくことだと思います。

資料集には、子供たちとのコミュニケーションを進めていくための「材料」を豊富に紹介させていただきました。大学入試センター試験をはじめとする「入試情報」、早い時期に話し合っておいていただきたい「マネー情報」、さらには子供たちへの「おすすめ学習法」など、興味のあるものから少しずつでも話題にしていただき、コミュニケーションを深めていただくきっかけにしてください。

最近は、18歳人口の減少にともなって「大学全入時代」とも言われていますが、実際はどうでしょうか。大学そのものの競争が激しくなる反面、「行きたい、入りたい」大学や学部の人気は変わっていません。但し、最も入試が厳しかった'90年代前半に比べると「努力が報われる時代が到来した」と言えると思います。それゆえに、過度な情報に惑わされることのない、将来の進路をしっかりと見据えた「大学・学部選び」が大切になります。

私は、「大学入学が決してゴールではない」と、塾生たちに言い続けてきました。ぜひ「将来の高い目標を掲げて果敢に挑戦する」気概で受験期を乗り切っていただければと思います。お子様たち一人ひとりが「輝かしい栄冠」を勝ち取られることをお祈りいたします。